

ゆ び
柚比遺跡群 1

鳥栖市教育委員会



上空から見た柚比遺跡群

佐賀県を東西に走る脊振山地の南麓から佐賀平野にかけては、数多くの遺跡群が形成されています。山麓部には縄文時代の遺跡や古墳が多く、さらにその南に舌状に伸びる台地上には、吉野ヶ里遺跡よしのがりのや二塚山遺跡ふたつかやまなど、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が多数分布しています。その東端に位置するのが鳥栖市柚比・今町一帯、一部基山町金丸地区かひまろにかけてひろがる柚比遺跡群で、東西約3km、南北約2kmの範囲に、主として弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が30ヶ所以上分布しています。



鳥栖市教育委員会では、この地区の大規模な開発にそなえて、昭和52年度から10ヶ年計画で柚比遺跡群の遺跡の内容を明らかにする目的で、範囲確認調査を実施しました。現在、この地区の大部分が「鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業」の対象地区となり、事前の緊急発掘調査が各所でおこなわれています。

柚比遺跡群は、杓子ヶ峰山麓下の標高約30~50mの丘陵群上に、縄文時代から中世にかけての遺跡群がほぼ途切れることなく分布しています。縄文時代の遺跡としては、①平原遺跡（柚比町）・②岸田南遺跡（今町）・③長ノ原遺跡（永吉町）があり、これらは柚比遺跡群のなかでも比較的標高の低い場所にあります。弥生時代になると遺跡の数が大幅に増加します。前期後半（約2100年前）には④八ッ並金丸遺跡、⑤今町岸田遺跡（今町）があり、中期（約2000年前）には⑥安永田遺跡、平原遺跡、⑦大久保遺跡、⑧前田遺跡（柚比町）など、その数・規模が大きく増加していき、最も盛んな時期を迎えます。なかでも、⑨柚比本村遺跡（柚比町）では銅剣などが副葬された首長集団の墓と祭祀遺構、そして祭殿跡と考えられる大型掘立柱建物がセットで発見され、注目されています。また、安永田遺跡では、銅鐸・銅矛などの青銅器生産工房跡が、大久保遺跡からは甕棺を焼いたとみられる遺構がみつかっています。弥生時代の北部九州地域で最も多くみられるお墓として、大型の土器を使った甕棺墓があります。これらは柚比遺跡群内にも数多く分布し、柚比本村遺跡、大久保遺跡、安永田遺跡、⑩柚比梅坂遺跡（柚比町）、⑪フケ遺跡（田代本町）などが代表的な墓地遺跡としてあげられます。これらの中にはお墓に伴うマツリの跡が確認されたものもあります。後期（約1900年前）には、平原遺跡で丘陵上に環濠をめぐらせた集落跡がみつかっています。

古墳時代になると、前半期には⑫赤坂古墳（永吉町）・⑬平原古墳（柚比町）などが造られ、6世紀代に入ると⑭剣塚古墳（田代本町）・⑮庚申堂塚古墳（神辺町）・⑯岡寺古墳・⑰東田古墳・⑱田代太田古墳（田代本町）などの大型古墳が築造されるようになります。6世紀中頃から7世紀代にかけては⑲梅坂古墳群・⑳永田古墳群（柚比町）といった直径30~40m、もしくは直径5~10mといった群集墳が現れます。